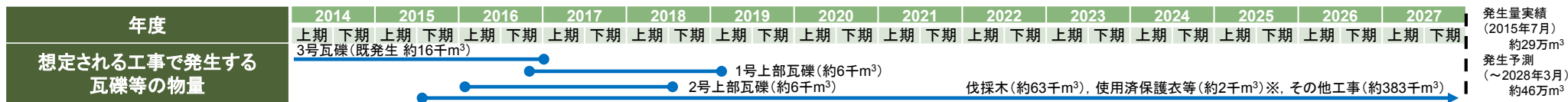


東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の瓦礫等保管のイメージ

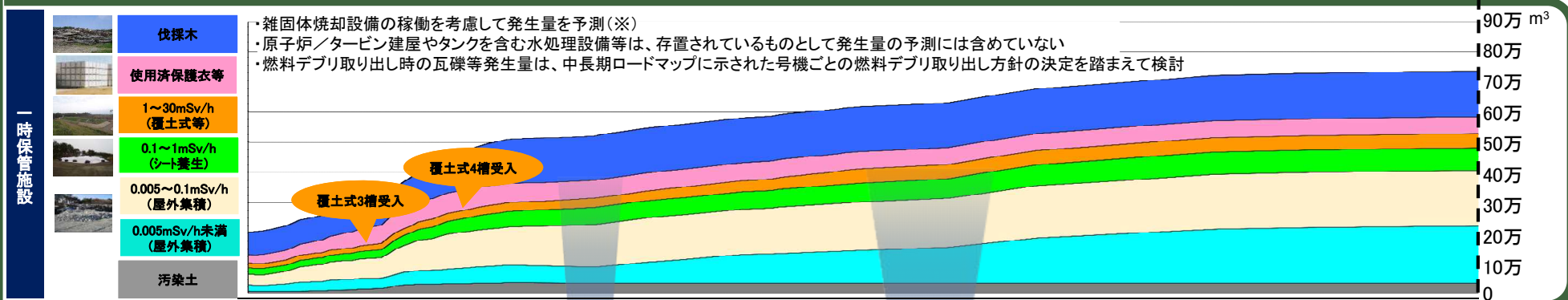
- ・敷地境界線量への影響が高い瓦礫等から優先的に建屋内保管に移行
- ・可能な限り、可燃物は焼却、金属・コンクリートは減容処理した上で、建屋内に保管
- ・今後の廃炉作業の進捗状況や瓦礫等発生量の将来予測の見直し等を、適宜反映していく

2016年9月1日
無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社



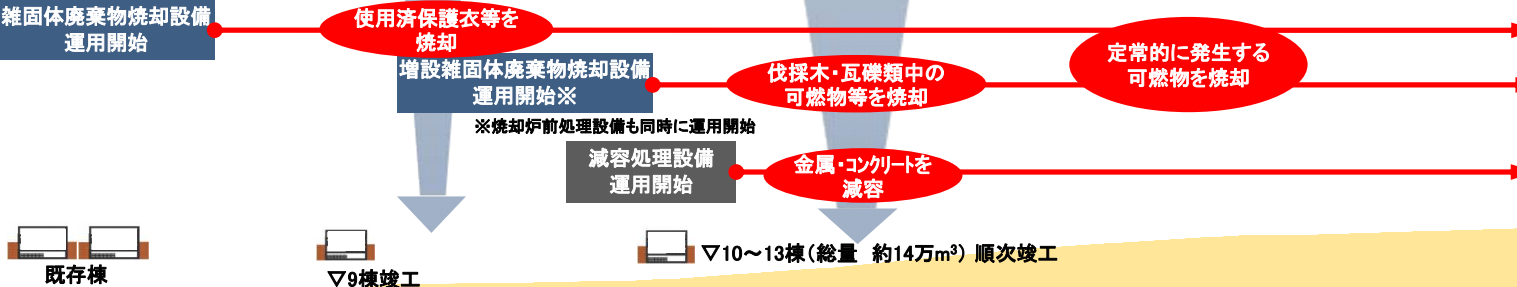
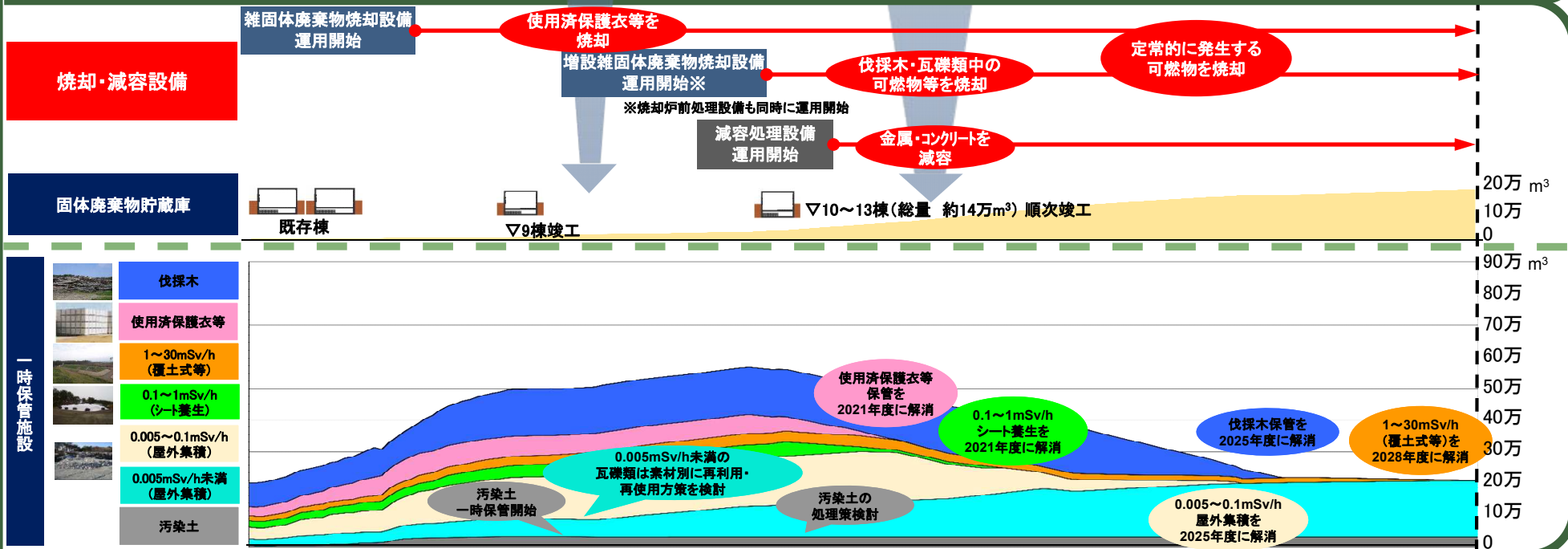
発生量実績
(2015年7月)
約29万m³
発生予測
(~2028年3月)
約46万m³

現状のままの保管状況



雑固体焼却設備の稼働を考慮して発生量を予測(※)
・原子炉/タービン建屋やタンクを含む水処理設備等は、存置されているものとして発生量の予測には含めていない
・燃料デブリ取り出し時の瓦礫等発生量は、中長期ロードマップに示された号機ごとの燃料デブリ取り出し方針の決定を踏まえて検討

対策後の保管状況



吸着塔等の保管状況

